

令和7年度 第1回 浜田市環境清掃対策審議会

【日 時】令和7年7月15日（火）13時30分～14時40分

【会 場】浜田市役所 東分庁舎 2階 東会議室

※ 出席状況：委員出席7名、欠席委員3名、事務局出席4名、傍聴者1名

1 会長あいさつ

□ 本日は、ごみの排出量ということで私たちの気になる内容となっており、令和5年度より6年度というようにごみが減っていくような取り組みについて話し合えば良いと思うのでよろしくお願いしたい。

2 報告事項

(1) 令和6年度ごみの排出量等について

別紙1

□質疑応答

〔委 員〕 少子高齢化が進み、年代の構成が変わってきていると思う。年代によりごみの排出量が変わってくると思うが、その相関性というのはどこかに反映されているのだろうか。

〔事務局〕 子どもがいる家庭であればおむつが大量に出るため、ごみの量が多くなることが考えられ、子どもがいる家庭が少なくなっていることからごみの総量が減っているとも考えられる。ただ、どの年代の家庭からどれほどの量のごみが出ているかという数字の確認は出来ないため、この資料からその相関性を読み取ることは出来ない。

〔委 員〕 数字では見ることは出来ないと思うが、ごみステーションを管理する各地域では感じ取ることが出来るかもしれない。その観点で委員はどう感じているか。

〔委 員〕 地域のごみは減っているように感じるが、減っているからと言っても年代の構成によってごみの量は変わると考えるため一喜一憂は出来ないと思っている。行政がごみの量のこれからを見据える際に、人口の推移だけではなく、年代の構成まで加味することが望ましいと感じる。

〔事務局〕 現在の一般廃棄物処理基本計画では、人口の推移を踏まえた内容となっている。年代の構成を数値として捉えるのは難しいと思うが、意見として頂戴しておく。

〔委 員〕 高齢者の方々が介護施設等に入所した場合、家庭ごみではなく事業者ごみとなる。これを踏まえると実はごみは減ってはいないのではないかなと思うが。

〔事務局〕 当市は事業所から生じるごみ（事業系一般廃棄物）の回収も行っている。中には、独自に業者委託を行って処分されている場合もあると思われ、その場合はご指摘のとおり数値として把握できていないが、事業所ごみとして排出される施設が多く、その要因による数値の差はあまりないと考えている。

- [委 員] 職場からごみステーションが見えることから、ごみの出る量が減ってきているという実感はある。先日、三隅支所にいた際に、ごみを持って来られる方がおられ、その方はリサイクルステーションの利用者であった。三隅支所では違反ごみの見本を置いて注意喚起しているということもあり、とてもきれいな状態のごみが捨てられていた。
- [委 員] リサイクルステーションの利用実績についても報告してもらいたい。
- [事務局] 次回、報告させていただく。
- [委 員] 事業所のごみの量の把握は難しいのか。
- [事務局] 難しい。
- [委 員] ごみが減ったということで、生活様式が変わったということもあるが、当市だけではなく社会全体でそのような流れになってきているのではと感じている。人口が同規模の自治体のごみが減っているかどうかということを確認してみてもいいのではと思う。
- [委 員] ボランティア活動を行った際にごみが減っている実感がある。市全体の不法投棄の量も減っているのか。
- [事務局] 不法投棄の回収を行っているが、年間数件に留まっており、減ってきていると感じている。悪質なものについては警察とも協力して対応しているが、そういった案件も減ってきており、市としては喜ばしいことと感じている。
- [委 員] 先ほどの社会全体でごみが減る流れになっているという意見について事務局から何かあるか。
- [事務局] 最近家電製品等の梱包材などかなり簡素化されてきている。そのような国全体の減量化の取り組みが、人口減少以上のごみの減量に繋がっているという考え方もあろうかと思う。
- [委 員] 新型コロナウイルス感染症により、コンビニで購入をされていたものが、外出せずに手作りをされるようになり、そのことも減量となった要因とも言われている。様々な要因があると思われるが、今後増やさないようする取り組みが重要であり、ごみが減ってきているということを市民の皆さんにも把握してもらうことも大切である。
- [委 員] 最近、介護が必要な祖母と同居することになったためごみの量が増えた。子どもは小学生になり、おむつがなくなったためごみは減ったものの、結果的にごみは増えている状態である。その他、最近牛乳パックの再利用に取り組むようになった。
- [事務局] 物価高騰の影響で余計な物を買わなくなった。このこともごみが減った要因ではないかと考えている。賞味期限も以前より気にするようになり、そういったことも食品ロス、可燃ごみの削減に繋がると思うので、そのような意識が広がればいいと思う。
- [委 員] 古紙についての分別の意識が広がっているように思う。当たり前のように分別が出来るのはとても良いことである。
- [事務局] 古紙の直接搬入の数値が増えているが、民間業者がゆめタウンで回収しているものも今回の報告から含めている。今後も含めた数値で報告させていただく。

- [委 員] 災害が全国で起きている。災害が起きてごみは何日も放置されるといった事態も懸念される。出来るだけ早く処理しなければならないといった課題もあると思っている。
- [事務局] 当市も災害廃棄物に関する計画を作っており、災害が起きた際に必要となる広い土地の候補地も立てている。また、何年か前から県が主導で災害が起きた際の訓練を行っており、当市も参加し知識を得るように努めている。実際に起きた際に動けるかということが重要であるが、そのための準備、心がけはしている。
- [委 員] 前回、ペットボトルとプラスチックを分けるという話があった。そのあたりの取り決めは今後される見込みはあるか。
- [事務局] 市としても最初から分けられていれば、混入も防げるし、中間処理場の手間も無くなり、望ましいと考えている。ただ、袋を新たに作る経費や、同一日に収集すると混ぜて潰してしまうといった、収集日の問題や収集の際の車両の問題などもあるため、検討を進めて、これらの問題が解決できれば分けた方が良く考えている。
- [委 員] 以前はペットボトルのフタを集めて、ワクチンを購入するといった活動があったが今は無く、課題となっている。
- [委 員] 山陰合同銀行さんがやっている。
- [事務局] 全国的な組織の島根県の事務局を山陰合同銀行が引き受けておられ、ペットボトルキャップの回収運動を行われている。支店や出張所の窓口で引き受けていただけるようで、書面を1枚記入する必要がある。山陰合同銀行さんへの確認が必要となるが、可能であれば市の方でも周知をしたいと思う。

(2) HAMADA ごみ分別アプリの登録者数について

別紙2

□質疑応答

- [委 員] 大体どのくらいの登録者数を目標としているのか。
- [事務局] なるべく多くと考えていたので具体的な目標数値というものはない。
- [委 員] 高齢者の方々の利用はあまり見込めないので、ある程度のところで登録者数はストップすると思われる。
- [事務局] 市としては、アプリとごみカレンダーの2つの確認手段をご用意しており、この2つの手段は今後も引き続き用意する方針なので、見やすい方でご確認いただければと良く考えている。
- [委 員] 市の方が分別方法で困っていることはないか。全国的には処理場で火災が起きたということもあるが。
- [事務局] 言われるとおり、電池類の問い合わせはとても多く、各支所やまちづくりセンターに設置している回収ボックスをご案内している。
- [委 員] 前回の審議会で、電池を捨てる際にテープを貼ってもらうような周知をしてもらうという話が出たが、現在もその周知がされていないまちづくりセンターがある。
- [事務局] 前回の審議会終了後、直ちに各センターに貼紙をするよう各支所に依頼している。各センターに行く予定がある際にということで各支所に依頼したた

め、現在もまだ貼られていないセンターがあるかもしれない。確認しておく。

3 その他

- ・ プラ容器包装品質検査結果
- ・ 各支所リサイクルセンターの移設